

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27 年 7 月 14 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3473300659		
法人名	医療法人 社団 明和会		
事業所名	ラ・メール大野		
所在地	広島県廿日市市丸石二丁目3-35 (電話) 0829-50-4315		
自己評価作成日	平成27年6月15日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3473300659-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成27年7月10日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

ラメール大野は海や山の近くに位置し、季節感を感じながら生活できる環境になっている。病院併設の施設で、医療面の支援体制については、入居者及びご家族に安心を提供している。また、地域密着型の施設として、毎月地域のふれあいサロン等に出向き、地域との交流を深め、入居者の方が地域で継続した生活が送れるように取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、併設する病院を運営する法人が、平成15年5月に開設し、周囲は山と海に囲まれた風光明媚な場所にありながら、国道から一本入った場所にあるなど、交通至便な立地にある。建物構造はグループホーム用に設計され、2階建ての建屋の1階部分を使用し、回廊式の構造になっているほか、廊下も広く、出入り口も大きいため開放感がある。
事業所では口腔ケアや、しっかりと食事を摂取することに力を入れており、利用者の個室に洗面台が設置されているほか、「口腔ケアマスター」という法人内資格を導入し、職員の育成を行うなど、独自の取り組みを行っている。また、地域活動にも積極的に参加しており、地域サロンへ参加して地域住民とストレッチ体操を楽しむなど、地域との交流も密に行っている事業所である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	グループホーム理念と法人の理念の共有を図っている。その理念に近づくために、目標を持って取り組んでいる。	法人の理念を踏まえ、事業所理念が作成されており、個々の利用者の尊厳を尊重しつつ、地域とのかかわりを重視している。また、職員の目標は、グループホームの理念に基づいて作成され、日々実践されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地区の一斉清掃や行事に参加し、毎月行われている、ふれあいミニサロンにも参加している。また、近隣の保育園との交流も行っている。	法人自体が町内組織の組の長になっており、地域のサロンや町内一斉清掃へ積極的に参加している。さらに、近所の保育園との交流、入居者とのふれあい、ボランティアの受け入れなど、地域とのつきあいが日常的に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	近隣中学校の職場体験実習を受け入れている。また、法人全体で地域公開講座（年1回）やセミナー（年6回予定）を開催している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月毎の運営推進会議で、ホームの活動報告などについて話し合いを行っている。（偶数月第4月曜日に開催）	運営推進会議には地域の役員のほか、家族会の代表2名以上が参加し、外出レクの実現や、地域からあがる法人運営の疑問点への回答などが行われており、事業所の運営に対する理解やサービス向上に活かしている。	会議の内容が家族会代表以外の家族にも周知されることと、市担当者の理解と参加を促すために、関係者への議事録の配布や、事業所で常に閲覧可能な状態にしておくなどの工夫や、具体的質疑のやり取りを議事録に盛り込む案など、幅広い意見が聞ける運営推進会議となることを期待したい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に、市の担当者の方に参加をお願いし、サービス状況などの報告を行っている。毎月、介護相談員（廿日市市職員）の受け入れも行っている。	市の介護相談員の受入を行っているほか、認知症サポーター養成講座や、徘徊ネットワークなど、市の活動への協力する体制も整えられるなど、市との協力関係を築けるような取り組みがなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束について理解し、身体拘束のないケアを行っている。玄関はタッチ式でドアホーンが鳴るようにしている。職員は名前を言って出入りを行っており、外出の察知が出来るようにしている。</p>	<p>法人内において、身体拘束廃止のための委員会を毎月行い、ホーム長もその委員であり、会議録によりその方針は、職員に周知されている。現在、身体拘束は行われていないほか、日常の言葉かけにおいても、言葉による拘束が発生しないよう、日頃から職員指導がなされている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修の参加で、高齢者虐待についての理解を深めるようにしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>職員は地域権利擁護事業や成年後見制度について理解している。必要に応じて、ご家族などに制度の説明などを行っている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>文章と口頭で十分な説明を行っている。その後においても、質問などがあれば、十分な説明を行うようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>年2回（納涼祭とクリスマス会）において家族会を開き、意見や要望などを頂くように働きかけている。また、意見や苦情などを記入する用紙を設け、相談を受ける体制を整えている。</p>	<p>2ヶ月に1回、家族会が開催されているほか、納涼会やクリスマス会などのイベントには多くの家族の参加があり、意見を聞いている。外出する機会を増やすことを要望する家族には、近隣の桜、バラ、菖蒲などを楽しめる企画を検討したり、近隣の散歩を増やすなどの取り組みにつなげている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	両ユニット合同のミーティングを行い、意見交換を行っている。その後に各ユニットに分かれてミーティングを行っている。(毎月第3水曜日に開催)	毎日時間を決めて、事故に繋がりにくい出来事等の話し合いの場が設けられているほか、日頃から主任や副主任経由で、ホーム長に職員意見の報告がなされている。その結果、職員の休憩時間の工夫や、利用者の見守り人数の改善などの意見が、具体的に運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課により、職員一人ひとりの評価するシステムを導入している。また、管理者や主任と職員間で個別に話し合う機会を設け、問題解決に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修の参加については、職員の希望する研修を受講できるように配慮している。費用なども法人教育委員でサポートできる体制がある。また、毎月法人内で研修が行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	外部研修に参加し同業者との交流を図っている。また、職員による他施設との相互研修を予定している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	面接や見学時に話を聞かせて頂き、安心した生活が送れるように対応している。また、必要な情報は記録し、職員間で共有できるようにしている。個別の担当を決め、入居者との関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面接や面会時に、コミュニケーションを取りながら、要望などを汲み取り、要望を取り入れたアセスメントや、日々の援助に取り入れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	介護保険制度のサービスについては、必要に応じ説明を行っている。医療については併設病院との連携により、専門医に相談・紹介するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	季節に応じた作品作りを入居者と一緒に行い、共感したり、支え合う関係を築くようにしている。また、入居者同士も支え合うようフォローしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時に家族の思いを聞き、本人の様子や意向などを伝える事で、信頼関係が築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入所時になじみの物品を持ちこんで頂く工夫をしている。また、家族や知人の面会時に情報収集を行っている。	本人がこれまで大切にしていた物品を自室に持ち込めるほか、友人の訪問の際は事業所も間に入って情報交換したり、近隣の地域の手作りの地図を壁一面に貼り、近隣との関係を利用者に実感してもらおうなど、本人の馴染みの関係が継続できるような支援がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	トラブルのない関係が構築できるように、入居者同志の席順などに職員が介入し、気を配っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所後でも、家族の方がグループホームを訪問されたりしている。必要に応じてご家族の方からの相談に応じている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者一人ひとりの状況や意向の把握に努め、できる事を主体として介護計画に取り入れ実践している。	個々の利用者に担当制を敷いており、介護計画の中には、本人の希望が反映されるように努めている。例えば、部屋の中で動き回る利用者には、行動を止めるのではなく、部屋にマットを敷き詰めたり、角にゴムを取り付けて、ケガの無いよう配慮するなど、本人本位に対応がなされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族より今までのライフスタイル、生活歴などについて情報を頂き、入居者の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者の有する力などを把握し、記録に残している。また、バイタルや体重チェックも行い健康管理に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>各ユニットで6カ月毎にカンファレンスを行い、ケアプランの作成をしている。その際に、本人・家族にはカンファレンスへ参加して頂き、思いや意向の確認をしている。</p>	<p>利用者の担当者、ケアマネジャー、ホーム長をはじめ、家族も交えて話し合いが行われ、介護計画が作成されている。更に日々の生活行動記録の左端に介護計画が綴じられており、常に介護計画を確認することができるような工夫がなされている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>入居者一人ひとりの行動記録があり、状態やケアの内容気づき等を記入している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>家族から宿泊希望があった場合、寝具の貸出や食事などの提供も可能となっている。また、法人内の福祉用具販売部門を通して、オムツや福祉用具の購入も可能となっている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の「ふれあいミニサロン」に参加している。参加することにより、季節感を味わってもらい、地域の方々とも交流を図っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人や家族の意向に沿った医療機関での受診・往診が出来るように配慮している。また、必要な情報は提供し、協力体制を築いている。</p>	<p>入居前に希望を聞き、併設する協力医か、それまでのかかりつけ医かを選択することができる。かかりつけ医を選択する場合は、家族対応で行ってもらい、薬の内容や次回受診日などの情報共有も適宜行われ、適切な受診のための支援がなされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>ホーム内で勤務している看護師や併設病院（大野浦病院）の看護職と連携して支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入居者が入院した場合、入院先の相談員と連携を図り、状況の把握や今後の方向性などについて話し合っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入所時に家族に対して、急変時や重度化した場合と、終末期のあり方（延命治療など）についての意向を確認し方針を決めている。</p>	<p>身体的に重度化した場合、併設の病院に入院するか、総合病院への搬送を希望されるかなど、重症時や急変時の対応方法について、入居時に家族から意向を書面で把握している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>緊急対応マニュアルを作成しており、職員一人ひとりが内容を把握している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>避難訓練を行い、入居者に意識して頂くようにしている。また、火災・災害時マニュアルを作成し、職員に徹底を図っている。</p>	<p>年2回、消防署立会いのもとで併設する病院と共に避難訓練を行っている。また、火災対応マニュアルが整備されているほか、夜間にもホーム長がすぐに駆けつけられるなどの体制が整えられている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者一人ひとりの性格を理解し、その方のペースに合わせた対応に心掛けている。	一人ひとりの人格やペースを尊重し、急がせない対応や、やさしい言葉づかいをすることが徹底されている。また、トイレへの誘導時の声かけの工夫なども、マニュアル上で整備されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己決定が出来るような言葉かけを行っている。また、残存機能を活かすケアを行うよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者の意思や体調に配慮し、個々ペースに合わせた対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	着替えや化粧などは、本人に任せて行うなど、本人の意思を大切にケアを行っている。外部より、散髪業者が月2回訪問している（希望によりパーマ、カラーも可能）		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	副食は柔らかく、場合によっては刻むなどしている。誕生日にはその方の嗜好食を提供している。夏場の時期を避け、刺身の提供も行っている。食事の準備は主にお盆並べやお盆拭きを一緒に行っている。	嗜好調査を行い、利用者の希望をメニューに反映しているほか、外の菜園で取れた野菜を食事に取り入れるなど、食事を楽しむことのできるような支援がなされている。また、11月～4月限定で月1回刺身を提供するなど、利用者が食事に意欲的になるような工夫もなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量や水分摂取量の記録を行い摂取状況の把握に努めている。また、月1回の体重測定を実施し、体重や食事摂取量の減少がある場合は医師に相談し栄養補助食品などの摂取を勧めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、入居者個々に応じた口腔ケアを行っている。併設病院の歯科衛生士から定期的に口腔内をチェックしてもらい、アドバイスを受けながらケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	スタッフは記録により、一人ひとりの排泄パターンを把握している。声かけの際に声の大きさなどさりげなく対応するようにしている。	排泄パターンの把握を行い、排泄記録表には排泄時間とともに水分摂取量の記載もある。排泄パターンをつかんで適切なトイレ誘導を行うことで、現在利用者の約半数が布パンツを利用しているなど、排泄の自立支援の取り組みがなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	入居者一人ひとりの状態を把握し、水分補給や乳製品の摂取を勧める、おやつ前の体操、散歩などによる適度な運動を取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の場合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的に2日に1回の入浴の支援をしている。入居者一人ひとりの希望に沿ったケアを心掛けている。希望があれば同性介助も可能である。	入浴は2日に1回入れるようになされており、一人ずつ浴室に誘導している。希望があれば同性介助を行うほか、臨時で入浴希望があれば入浴日でなくとも入浴することができる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>入居者一人ひとりの状況に応じて、運動量を増やすなど、安眠を促すような支援を行っている。また、体調に合わせて適度な休息がとれるようにしている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>入居者一人ひとりの服薬内容を把握し、医師の指示通りに服用できるようにしている。また、薬剤師と連携し薬をセッティングしてもらうなど、誤薬予防のためのシステム作りが出来ている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>入居者の好きなこと、得意なことに取り組んでもらうようにしている。生活の中においても、洗濯物たたみなどの役割を持ってもらい、入居者一人ひとりの個性や特徴が活かせるような支援をしている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>入居者の希望を聞き、一緒に散歩や外出の企画に取り組んでいる。4月と6月は、ドライブレクリエーションを行った。</p>	<p>海岸が近くにあるので散歩をしたり、近所の保育園へも立ち寄るなど、日常的な外出支援がなされている。お花見など季節行事でも外出しているほか、遠方への外出希望がある場合、家族対応で外出できる様に協力をするなどの支援がなされている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>入居者の能力に応じた支援を行っている。ホームで預かる場合は、家族に預かり書を発行し、管理している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>プライバシーに配慮し、手紙や電話が利用できるようにしている。携帯電話を利用する入居者も居る。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居間の壁には、入居者と職員が協働で作成した季節の壁画を飾っている。また、エントランスには写真を飾っている。入居者が居心地良く過ごせるように、TVの音量、照明の明るさにも気を配っている。</p>	<p>共用空間には、季節に応じた飾り付けや、エントランスホールには日頃の様子を写した写真など、利用者や家族との会話のきっかけとなっている。小上がりの畳スペースもあり、少しくつろげる空間や、暖色系を採用した照明など、居心地の良い共用空間作りに努めている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>リビングに畳のスペースやソファを設置して、自由に過ごせるようにしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入所の際は、使い慣れた私物を持ち込んで頂くように働きかけ、本人が居心地良く過ごせるようにしている。</p>	<p>入居前に親しんでいた利用者の私物を持ち込むことができるほか、全ての個室に洗面台を設置するなど、清潔に保ち居心地の良く過ごせるような工夫がなされている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>低めの流し台、要所への手すりを設置している。本人が出来る事は見守りながら、自らやってくれるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営(2ユニット)					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	グループホーム理念と法人の理念の共有を図っている。その理念に近づくために目標を持って取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会組織に属し、毎月行われている、ふれあいミニサロンにも参加している。また、近隣の保育園との交流も行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	近隣中学校の職場体験実習を受け入れている。また、法人全体で地域公開講座(年1回)やセミナー(年6回予定)を開催している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月毎の運営推進会議で、ホームの活動報告などについて話し合いを行っている。(偶数月第4月曜日に開催)		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に市の担当者の方に参加をお願いし、サービス状況などの報告を行っている。毎月、介護相談員(廿日市市職員)の受け入れも行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束について理解し、身体拘束のないケアを行っている。玄関はタッチ式でドアホーンが鳴るようにしている。職員は名前を云って出入りを行っており、外出の察知が出来るようにしている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修の参加で高齢者虐待についての理解を深めるようにしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>職員は地域権利擁護事業や成年後見制度について理解している。必要に応じてご家族などに制度の説明などを行っていきたい。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>文章と口頭で十分な説明を行っている。その後においても質問などがあれば、十分な説明を行うように心がけている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>年2回（納涼祭とクリスマス会）において家族会を開き、意見や要望などを頂くように働きかけている。また、意見や苦情などを記入する用紙を設け相談を受ける体制を整えている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>両ユニット合同のミーティングを行い、意見交換を行っている。また、問題などが発生した場合には、必要に応じて話し合いをしている。（毎月第3水曜日に開催）</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>人事考課により、職員一人ひとりを評価するシステムを導入している。また、管理者や主任と職員間で個別に話し合う機会を設け、問題解決に取り組んでいる。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>外部研修の参加については、職員の希望する研修を受講できるように配慮している。費用なども法人教育委員でサポートできる体制がある。また、毎月法人内で研修が行われている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>外部研修に参加し同業者との交流を図っている。また、他施設との職員相互研修を予定している。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>面接や見学時に話を聞かせて頂き、安心した生活が送れるように対応している。また、必要な情報は記録し、職員間で共有できるようにしている。個別の担当を決め、入居者との関係づくりに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面接や面会時にコミュニケーションを取りながら要望などを汲み取り、要望を取り入れたアセスメントや日々の援助に取り入れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	介護保険制度のサービスについては、必要に応じ説明を行っている。医療については併設病院との連携により専門医に相談・紹介するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	季節に応じた作品作りを入居者と一緒に行い、共感したり、支え合う関係を築くようにしている。また、入居者同士も支え合うようフォローしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時に家族の思いを聞き、本人の様子や意向などを伝える事で、信頼関係が築けるよう努めている。また、月1回入居者の暮らしぶりを一ロメッセージ（手紙）にして、家族へ伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入所時になじみの物品を持ちこんで頂いたり、家族の写真などを持ってきて頂くなどの工夫をしている。また、家族や知人の面会時に情報収集を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>トラブルのない関係が構築できるように、入居者同志の席順など職員が介入し、気を配っている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	<p>退所後でも、家族の方がグループホームを訪問されたりしている。必要に応じてご家族の方からの相談に応じている。</p>		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>入居者一人ひとりの状況や意向の把握に努め、できる事を主体として介護計画に取り入れ実践している。</p>		
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>家族より今までのライフスタイル、生活歴などについて情報を頂き、入居者の把握に努めている。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。</p>	<p>入居者の有する力などを把握し、記録に残している。また、バイタルや体重チェックも行い健康管理に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>各ユニットで6カ月毎にカンファレンスを行い、ケアプランの作成をしている。その際に、本人・家族カンファレンスへ参加して頂き、思いや意向の確認をしている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>入居者一人ひとりの行動記録があり、状態やケアの内容気づき等を記入している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>希望があれば、散歩、ドライブ、外食の支援を行うようにしている。また、法人内の福祉用具販売部門を通して、オムツや福祉用具の購入も可能となっている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の「ふれあいミニサロン」に参加している。参加することにより、季節感を味わってもらい、地域の方々とも交流を図っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人や家族の意向に沿った医療機関での受診・往診が出来るように配慮している。また、必要な情報は提供し、協力体制を築いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	ホーム内で勤務している看護師や併設病院（大野浦病院）の看護職と連携して支援している。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入居者が入院した場合、入院先の相談員と連携を図り、状況の把握や今後の方向性などについて話し合っている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	入所時に家族に対して、急変時や重度化した場合と終末期のあり方（延命治療など）についての意向を確認し方針を決めている。		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	緊急対応マニュアルを作成しており、職員一人ひとりが内容を把握している。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	避難訓練を行い、入居者に意識して頂くようにしている。また、火災・災害時マニュアルを作成し職員に徹底を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者一人ひとりの性格を理解し、その方のペースに合わせた対応に心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己決定が出来るような言葉かけを行っている。また、残存機能を活かすケアを行うよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者の意思や体調に配慮し、個々ペースに合わせた対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	昼夜のメリハリをつけてもらうように、朝は服に着替え、夜はパジャマに着替えるよう支援している。外部より散髪業者が月2回訪問している（希望によりパーマ、カラーも可能）		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	副食は柔らかく、場合によっては刻むなどしている。誕生日にはその方の嗜好食を提供している。夏場の時期を避け、刺身の提供も行っている。食事の準備は主にお盆並べやお盆拭きを一緒に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量や水分摂取量の記録を行い摂取状況の把握に努めている。また，月1回の体重測定を実施し，体重や食事摂取量の減少がある場合は医師に相談し栄養補助食品などの摂取を勧めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後，入居者個々に応じた口腔ケアを行っている。併設病院の歯科衛生士から定期的に口腔内をチェックしてもらい，アドバイスを受けながらケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	スタッフは記録により，一人ひとりの排泄パターンを把握している。また，立位保持などが困難な入居者も日中はトイレでの排泄を心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	入居者一人ひとりの状態を把握し，水分補給や乳製品の摂取を勧める，おやつ前の体操，散歩などによる適度な運動を取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的に2日に1回の入浴。拒否があった場合などは職員を変えて声をかける，また時間帯を変えるなど，無理をせず入居者一人ひとりの希望に沿ったケアを心掛けている。希望があれば同性介助も可能。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>入居者一人ひとりの状況に応じて、運動量を増やすなど安眠を促すような支援を行っている。また、体調に合わせて適度な休息がとれるようにしている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>入居者一人ひとりの服薬内容を把握し、医師の指示通りに服用できるようにしている。また、薬剤師と連携し薬をセッティングしてもらうなど誤薬予防のためのシステム作りが出来ている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>入居者の好きなこと、得意なことに取り組んでもらうようにしている。生活の中においても洗濯物たたみなどの役割を持ってもらい、入居者一人ひとりの個性や特徴が活かせるような支援をしている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>入居者の希望を聞き、一緒に散歩や外出の企画に取り組んでいる。4月と6月はドライブレクリエーションを行った。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>入居者の能力に応じた支援を行っている。希望があれば家族と相談し、お金を所持してもらっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>プライバシーに配慮し、手紙や電話が利用できるようにしている。携帯電話を利用する入居者も居る。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居間の壁には入居者と職員が協働で作成した季節の壁画を飾っている。また、エントランスには写真を飾っている。入居者が居心地良く過ごせるように、TVの音量、照明の明るさにも気を配っている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>リビングに畳のスペースやソファを設置して自由に過ごせるようにしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入所の際は、使い慣れた私物を持ち込んで頂くように働きかけ、本人が居心地良く過ごせるようにしている。また、状態に応じて本人と家族に相談し部屋の環境設定を行っている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>低めの流し台、要所への手すりを設置している。本人が出来る事は見守りながら自らやってくれるようにしている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 ラ・メール大野

作成日 平成27年8月21日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	運営推進会議において市担当者、地域包括支援センター職員の参加が得られていない。	市担当者、地域包括支援センターとの協力体制を強化する。	支所、地域包括支援センターに出向き運営推進会議の参加依頼を行う。	3ヶ月
2	5	幅広い意見が聞ける運営推進会議が出来ていない。	会議出席者以外からも意見が聞ける運営推進会議を目指す。	ご家族や面会者がホーム内で運営推進会議の議事録が閲覧できるようにする。	1ヶ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。